

市民活躍・地域コミュニティ活性化特別委員会記録
【速報版】

令和8年2月3日開会

速報版

- ・この会議録は録音を文字起こしした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なもののため、今後修正されることがあります。
- ・正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横浜市会

開会時刻 午後1時30分

◎ 開会宣告

- 麓理恵委員長 これより委員会を開会いたします。

欠席委員は、関委員です。

上着の着用は御自由に願います。



◎ 調査・研究テーマつながり再構築に向けた地域支援について

- 麓理恵委員長 それでは議題に入ります。

調査・研究テーマ、つながり再構築に向けた地域支援についてを議題に供します。

なお、本日はオブザーバーとして市民局の関係職員にも御出席いただいておりますので御了承願います。

初めに、本日の委員会の進め方を御説明いたします。

本日までに、自由民主党、公明党、立憲民主党・無所属の会、国民民主党の委員の皆様が、それぞれ行政視察を実施して他都市における事例を調査していただきました。そこで本日はまず、これらの行政視察について各派会派から御報告をいただきたいと思います。次に、本委員会の中間報告書の作成に向けまして、中間報告書の構成案を御確認いただき、委員の皆様からまとめに向けた御意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、他都市事例の視察から得られた知見等について御報告をお願いいたします。なお、資料1といたしまして各派会派が視察された項目等の一覧を用意いたしました。

初めに、国民民主党の報告をお願いいたします。

- 二井くみよ委員 よろしくお願いいたします。国民民主党の二井くみよです。私は昨年8月、市民活躍・地域コミュニティ活性化特別委員会の視察として、佐賀県及び福岡県飯塚市にお伺いしましたので御報告いたします。

まず初日は、佐賀県における自発の地域づくりや担い手確保の取組についてお話を伺ってまいりました。佐賀県では住民が主体となって地域課題の解決に挑戦をする取組を10年以上にわたり継続されており、行政が伴走しながら支える仕組みをしっかりと構築していることが特徴的でした。県庁職員の約2割の方が民間出身でいらっしゃるということで、民間の多様な発想を各事業に取り入れて、失敗しても挑戦をするという風土が根づいている。また、知事からも失敗してもいいからどんどん挑戦するようにと、ふだんから言われているというお話が大変印象的でした。

具体的には離島での島留学や地域資源を生かした観光の取組、若者が地域に入り活動するプロジェクトなど、幅広い世代が関わる仕掛けが数多く展開されていきました。特に若者や学生が地域の魅力を再発見し、発信をしていく取組は地域への誇りや愛着を育てながら人材の循環につなげているというふうに感じました。質疑の中では、職員が短期間で異動せずに長く地域に関わっていくことで住民との信頼関係を構築していることや、挑戦した結果を次に生かすという仕組みを大切にしているということなどをお伺いいたしまして、本市にとっても参考になる点が多くあると感じました。

次に、2日目は福岡県飯塚市にて地域コミュニティ活性化に向けた協働の取組についてお話を伺ってまいりました。飯塚市では市内12地区、それぞれに交流センターとまちづくり協議会が設置され、地域特性に応

じた活動が行われているのですが、自治会加入率の低下や担い手の高齢化といった課題は横浜市と共通しているという状況です。

そのような中で印象的でしたのが、若者が主体となって地域活動を広げているという事例です。20代前半の若者が中心となり、清掃活動やワークショップを企画し仲間を増やしながらか地域を盛り上げていました。また、市全体の取組として、自治会加入促進を目的に自治会の歌を制作しY o u T u b e動画を活用して、親しみやすく発信をされているという点も大変ユニークで効果的だと感じました。この動画は私自身も自分のY o u T u b eでもいいと思って、すごくいいなと思ったので取り上げさせていただいておりますので、よかったら委員の皆様も、ぜひ御覧いただけますとうれしいです。

こうした今回の視察を通じて、地域づくりにおいては住民の自発性を引き出す環境づくりと行政が柔軟に支える姿勢が非常に重要であると改めて感じました。また、若者や子供たちが地域に関わるきっかけをつくる工夫が、将来の担い手確保につながっていくということを実感しました。他都市の取組において横浜市と異なる点や工夫されていることを参考に、本市においても地域コミュニティの活性化や担い手確保の施策に貢献ができるようにと取り組んでまいります。

以上で私の報告を終わります。ありがとうございます。

- 麓理恵委員長 ありがとうございます。

次に、立憲民主党・無所属の会の報告をお願いいたします。

- 越久田記子委員 立憲民主党無所属の会の越久田記子です。御報告をさせていただきます。我が会派では昨年11月6日から7日にかけて神戸市に伺いました。

1日目は、神戸市兵庫区にある2015年に廃校となった旧湊山小学校の跡地を活用したNATURE STUDIOでの自然と地域の交流について視察してまいりました。NATURE STUDIOはコミュニティ型の複合施設で、地元出身者が社長を務める村上工務店が2019年に湊山小学校跡地利活用事業として認定され、自然と暮らす地域をつくるというビジョンで、エリア全体の持続可能な地域づくりに取り組むことになっていました。リバーワークスという村上工務店と、社長を同じくする会社が全体の管理運営を行い、子育て施設や介護施設など地域のニーズに対応する施設と集客のための小規模水族館、ハーブショップ、レストラン、ブルワリー、そして体育館だった場所の2階にはフードホール、経営会社のセントラルキッチンなどを設置し経済効果も高めていました。

質疑の中でテナント企業の経営は成り立つのかということがありましたけれども、先ほど話したフードホール、経営会社のセントラルキッチンがテナント企業の収益のメインとなっており、テナントも含めて約100人の雇用を地域で生み出せるということを教えていただきました。このNATURE STUDIOが地域の中心になるような地域資源が循環するような仕掛けが多くあり、自治会の高齢化などの課題が、ここで活動を共にすることで解消されているように感じました。また最寄り駅とNATURE STUDIOを結ぶ市営バスの路線マップを地域愛で醸成していく活動というようなものに広げていくなど、強力な管理運営者がいることで、人々が集まり活動をより活性化させているということがうかがえました。

2日目には神戸市役所に伺い、地域協働局担当者より神戸市における地域協働の取組について伺いました。神戸市では1965年より公害問題や生活環境の改善を目的に、市内西部地域より住民運動が展開されて1981年には神戸市地区計画及びまちづくり協定に関する条例を制定するなど様々な条例をしっかりとつくって、2009年に地域協働局を新設し、まちづくり課を地域協働課と名称変更するなど、地域との協働を地域課題の解決

につなげる取組を推進させてきたそうです。1995年の阪神・淡路大震災を教訓に、防災福祉コミュニティ事業も本格的に始まり現在に至っているそうです。

また、市内194施設に設置している地域福祉センターを地域活動の促進、地域社会の課題解決に寄与する施設として利活用したり、地域活動の輪をつなぐポータルサイト、ぼらくるを立ち上げ、地域で活動してみたい方、地域の取組やイベントに参加してみたい方と地域団体、NPOをマッチングしたり、地域コーディネーターを2023年7月より各区に配置し、地域活動に関心を持つ市民が活動に参加するためのコーディネートを行い、また本庁の地域協働局に地域貢献相談窓口を設置し、地域貢献に向けた相談者の思いの実現につながるなどの施策を行ってきたそうです。

意見交換をする中で、やはり横浜市と神戸市共通の課題としては地域資源をつなぐスキルを持つ、つなぐ人材が場にいるということが重要ということを確認しました。担い手不足に関しての所感ですが、震災のときに地域でのつながりを大切にという機運が高まったが、その後、やはり担っていく人材が育っていないということが課題だということです。昔からやっている人が引き続きやっているという感じがあるということでした。

また、市内の各区が地域課題をどう把握しているのかという点については、各区の地域担当者が地域に入り込んでというのが基本であるが、やはり移動などでしっかりとしたつながりができづらいことは課題だと考える。地域課題をしっかりと引き出していく場の構築に力を入れていかなければならないということでした。

地域活動において担い手不足問題の解決、そして核となる求心力のある人材をどう見だし、地域課題解決に参画してもらうかという課題は神戸市そして本市、横浜市全く同じであると感じました。地域コーディネーターを専門的に採用し、各区の地域協働課とともに地域で活動したいと思っている市民と地域活動課題をつなげていく取組、そして神戸市では本庁に地域貢献窓口を設置し、地域のために何かをしたいという小さな思いもくみ取っていくという姿勢はとても参考になりました。また、若い世代に対しては学校での探究学習等を活用して、やはり地域に興味・関心を持つという機会を増やすべきだということを感じました。

○ 麓理恵委員長 ありがとうございます。

次に、公明党の報告をお願いいたします。

○ 竹内康洋委員 公明党、我が会派といたしましては、11月に兵庫県神戸市にありますデザインクリエイティブセンターK I I T O、そして公立大学法人の大阪大学の新森之宮キャンパスにお伺いをしてまいりました。

まず、神戸市のK I I T Oでありますけれども、デザインクリエイティブセンターK I I T Oということで、ここは本来は2012年から旧神戸市立生糸検査所を改修しまして、かつて輸出生糸の品質検査をした歴史的な建造物でありますけれども、現在は神戸をBE KOBEということで、神戸に根づいている、神戸の震災以来、非常に強い皆さん復興ということも含めた思いの強い神戸の魅力は人であるということで様々な展開をしています。

その中で、このクリエイティブセンター神戸K I I T Oについては、館内は貸しホールやギャラリー、会議室、オフィスや入居スペースなどがあって、アーティストやデザイナーだけでなく世代があらゆる交流をしてアイデアや工夫、そうしたことを社会的な課題につなげていくという発信基地でもありました。実はこのことについては私、今、委員長を進めております常任委員会でも視察にお伺いをいたしましたけれど

も、このときには実は、永田宏和さんというセンター長はいらっしゃらないで、どちらかというと施設で行われている内容、これ自体も様々、今日は詳しくはお話ししませんけれども、非常に勉強になりましたけれども、その根幹となるセンター長のお話をぜひお聞きしたいということで行ってまいりました。

そしてK I I T Oについては、現在の社会的課題解決型のデザインセンターを標榜していて、みんなが地域のクリエイター、クリエイティブになるそんな時代をつくりたいというスローガンを持たれています。そしてセンター長のメッセージとしてが、今申し上げた、みんながクリエイティブになる、そんな時代の中心になるというのが、このK I I T Oの存在価値であるとされています。神戸で暮らす働く人や子供、若者、大人たち、そんな人たちが集まって、次々に何かを生み出していく場所にしたいと。そして様々な人や世代が交流をして、そこから生まれるアイデアや工夫で新しい神戸をつくっていききたいということでありました。

概念の一つでフィロソフィー、活動理念という言葉が使われておりましたけれども、これは一つの例えでありましたけれども、風と水と土そして種ということを掲げてお話をされておりました。3つの立場で、やはり風と水と土が必要であって、地域の人たちがお互いに仲よく生き生き暮らす元気なまちになるというのが地域の豊穡化であると。そこを耕す意味での種ということにおいては強度のある、強い強度ですけれども、強い種がまず必要になるという。また立場の違う人について、これは土の人というのは土が動かないわけにありますけれども、そこにいつづける地域住民に例えて、その種は活動であって、例えば横浜でも地域で行われておりますけれども、祭り、餅つき、防災訓練などの様々な活動があります。

ただ、高度成長経済期以前は土は豊かだったけれどもコミュニティが、そして豊かで土も養分も含まれたけれども、今はそういう状況にない。どんな種を植えても自然に芽が出ていた時代とは違って、現在は表現的にいうと、土が枯れてしまっているのではないかと。そういう状況から、地域から神戸でも祭りや餅つきが姿を消して、そんなときに救世主として期待されるのが風の人と言われていました。風の役割というのは、そんな乾いた土で芽が出なくなった古い種を品質管理をして強い種として風に乗せて、いろんな地域に紹介をしていく存在、そこがやっぱりクリエイティブデザインセンターK I I T Oでつくる人たちの狙いでもあるということでありました。

この強い種をつくれる存在を今まさに社会が求めている、風の人というのが、この日本のあらゆる地域で欠乏症になって、強い種を切望しているというふうなことでありました。そうしたことから、そういった種があり、風の人があり、また強い種ができれば、水というのは地域愛にあふれる様々な人たちが今でもいらっしゃると。町内会であったり、PTAであったり、NPOのメンバーであったり、そうした人たちが強い種さえあって水をやっていけば、その地域はまた存在し続けているというような話をされまして示唆に富む話であると思いました。

その中で、やはりそうしたBE KOBEのこういうシビックプライド的なメッセージは横浜についても、はまっ子という元来、空襲もそうですけれども関東大震災以来、市民がこうして復興を遂げてきた中で文化活動をはじめ地域活動もあるということ、そうしたことをやはりマネジメント、横につなぐことができるということが今求められているし、また、そういう存在が必要ではないかというふうに感じました。

続きまして、大阪公立大学についてはイノベーションセンターという形でも存在されている大学でありますけれども、特に大阪公立大学というのは私立大学と県立大学が合併をしてできた大学で、なおかつ知の森としてイノベーションコアを牽引するというので、新設をされた今年の9月に森の宮に立地するメインキャンパスとして新しくできたキャンパスでありました。そこに菅野准教授のお話を聞く機会を得ましたけ

れど、やはりそういった今、BE KOBEを基にしたK I I T Oのお話もありましたけれども、ネットワークを可視化するという視点でお話をいただきました。様々なスケールフリーネットワークであったり、深い話もいただきましたけれども、ネットワークというメカニズムを働かせる大切な重要分子はハブとなっている人物であると。そうしたネットワークという解決パターンを社会で実装するために、最も重要となるのはネットワークの要となるハブ、つまり人と人をつなぐ人の取扱いを変えることであるというようなお話もありました。

現実的には様々なコーディネーターの方でありますとか、神戸にも多く存在しますし、横浜にもいらっしゃると思います。横浜にもBE KOBEでも感じたことでありますけれども、K I I T Oにも感じたところでもありますけれども、多様な市民力、ネットワークを紡ぐ、人と人を紡ぐ人の作用、ネットワークを可視化するそうした課題先進都市ともいえる横浜もまだまだ潜在力がありますので、こうした場を広げていくことにより現在のコミュニティが深まり、そしてまた課題解決につながるではないという所感を持ちました。

○ 麓理恵委員長 ありがとうございました。

次に、自由民主党の報告をお願いいたします。

○ 青木亮祐委員 今回、自民党は1月20日、21日に福岡と長崎を視察いたしました。この超高齢化社会を迎えるに当たって、特別委員会のテーマである市民活躍イコール高齢者、そして我々の人生の先輩方の活躍といっても過言じゃないと思います。まず福岡では、福岡生涯現役チャレンジセンターを視察いたしました。これは福岡県を中心に様々な多くの団体や企業が入り込んで、このチャレンジセンターを運営しています。このセンターは、大体高齢者の就労支援という、定年を迎えた60代の皆様に結構特化をしているところが多いのではないかと思います。実はこのセンターは将来を見越して、今70歳以上の方を含む高齢者の就労意欲を社会参加と雇用につなげることを目的とした事業を、主に今取り組んでいただいています。

特徴的なのは単なる職業紹介だけでなく、最初から最後まで人事のプロのコーディネーターの皆様が結構多くいらっしゃるって、本当に丁寧に伴走をしていくという点でございます。これまでの職歴や経験、体力や希望に応じて働き方を整理して短時間勤務なども含めた重要なマッチングが行われていました。私たちが訪れさせていただいたときも非常にセンターにぎわっていて、いっぱいいろんなところのブースで相談をしているというような状況でありました。

また、コーディネーターの方々には企業に赴いて、高齢者ができる仕事を一緒に企業とつくっていったりとか、センター自体で企業に対して定年を70歳まで延ばせないか、それとも定年というものを健康な方についてはなくしていこうじゃないかみたいな取組もされています。

あと、ふくおか子育てマイスター制度というものがあって、それは保育士やその補助を担う人材を育成認定し、現場で活躍してもらうことで保育士不足の解消を図っているとのことでした。現役を退いた先輩方の知識や経験を地域に生かす仕組みは、高齢者の生きがいづくりと人手不足対策を同時に進める好例でありまして、これは、ぜひ横浜市でも参考になるし、取り入れた方がいいのではないかなという取組だと強く感じました。

続いて、21日に訪れさせていただきました長崎では、長崎スタジアムシティという場所を視察させていただきました。これはジャパネットグループが民設民営で整備した施設でございます。Jリーグの、これもジャパネットグループがオーナーなのですが、V・ファーレン長崎、B. LEAGUEの長崎ヴェルカのホームであると同時に、市民に開かれた、この施設自体がまちそのものになっています。試合のない日でも

スタジアムに市民が幾らでも勝手に出入りをして飲食や散策、交流を楽しめるスタジアムの市民開放が徹底をされておりまして、スポーツ施設でありながら日常的な居場所として機能している点が非常に印象的な場所でありました。

また、スタジアム内のクラフトビールの醸造や多様なイベント運営などを通じて、雇用やボランティアの機会が生まれております。市民が支える側、参加する側に関われる仕組み、イコール市民活躍が随所に組み込まれていました。サッカースタジアムの上にジップラインか何かを引いてあるのです。これはなかなか公が入るとやりづらいような施設も自由な発想でありました。ホテルも併設されておりまして、サウナ、プールからサッカーが観戦できるような場所もありまして、非日常性を備えながらも市民と暮らしと自然につながる設計となっています。ホテルも非常に8割ぐらいの集客、稼働率ということでありました。

民設民営で、一切実は公の手が入っていないものらしいのですけれども、やはりこの場所ができたことによって周辺の道路が実は整備をされたりとか、長崎駅前が今すごく工事があって、広々として巨大なターミナルも建設中でありました。民設民営でできたこの施設が、逆に公を動かしたと、そういうような感じの施設でありました。

今回の視察を通じまして、福岡では生涯現役という人の活躍。長崎では市民開放と市民活躍という空間と仕組みの活用、いずれも人を中心に据えたまちづくりの重要性を強く感じました。これらの知見を今後の横浜市の施策検討に生かしていきたいと考えています。

- 麓理恵委員長 大変示唆に富む御報告ありがとうございました。
ただいま、各会派報告につきまして御質問等がございましたらお願いをいたします。
(「なし」と呼ぶ者あり)
- 麓理恵委員長 では、特に御発言もないようですので行政視察の報告については、この程度にとどめます。
次に、本委員会の中間報告書の作成に向けまして事前に正副委員長において協議し、中間報告書の構成案を作成いたしましたので、私から説明させていただき、その後、委員の皆様から中間報告書のまとめに向けた御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、資料2の令和7年度市民活躍地域コミュニティ活性化特別委員会中間報告書構成案を御覧ください。こちらにつきましては本委員会の1年間の活動について、このような構成でまとめていきたいというものでございます。1ページ目から3ページ目にかけて、1、付議事件、2、調査・研究テーマ、3、テーマ選定の理由、4、活動内容・意見等とし、各委員会の議題や委員意見概要等を記載いたします。次に、5、つながり再構築に向けた地域支援の取組についてのまとめ、という5つの項目立てになっております。

私からの説明は以上でございます。先ほどの視察報告にも、本委員会のまとめの参考になりそうな御報告ありました。それでは改めて、中間報告書のまとめに向けた御意見をお願いしたいと思います。

- 越久田記子委員 今回のテーマ、つながりの再構築ということで質疑をしてまいりましたけれども、この横浜市でもスタートした、よこむすびというアプリ、要するにDXでアプリを使ってみんなでつながっていくということも必要だと思うのですけれども、地域ごとにそれぞれ18区ある区の中でも、地域ごとにある課題を区役所をはじめとした役所が丁寧に把握して各地域に合ったつながり、誰と誰をつなげるかとか、誰と何を構築していくかというようなことというのは、やはりアプリだけではなくて顔が見える関係の中、人と人とのつながりの中で構築していくべきものもあるのではないかと。それを、言うなればミックスしていったら、そこがまた何か新しいものが化学反応的にできていくという、そういうようなことが重要なのではないかと

考えます。

この委員会、今年度からスタートして、スタートしたばかりの中で、かつ物すごくテーマを絞らずに、視点を絞らずにこうやって皆さんと話をしてきたり、また今視察の御報告を聞かせていただいたという中で、皆さんの視察からそれぞれ意見を伺って課題の整理であったりとか各地区の課題、それと本市、横浜市の課題の対比であったりとか同じようなところというのがかなり見えてきたのではないかなと思いますので、課題の洗い出しができたところで、来年度そして来年度以降の委員会の柱づくりに今回のこの質疑が役立つなということのを思いました。

- 麓理恵委員長 よろしいでしょうか。それでは、ただいまの御意見を参考にして正副委員長で中間報告書の報告書の案を作成し、次回の委員会においてお示ししたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。ほかに御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。

◇

◎ 閉会宣告

- 麓理恵委員長 以上で本日の議題は終了いたしましたので、委員会を閉会いたします。お疲れさまでございました。

閉会時刻 午後1時58分

速報版